

私がこの会社を 選んだ理由

～ライフステージの変化とキャリアの価値観～

D&Iを積極的に推進する三井物産とメルカリが、女性のキャリア形成における「現実と課題」や「未来への期待」を深掘り。自律的なキャリア形成の実現に必要なこととは？

Speakers



株式会社メルカリ
HR Information System team
林 まり子 氏



三井物産株式会社
ホスピタリティ事業部
複合型サービス開発室
兵藤 晴香

Facilitator



株式会社ワンキャリア
佐賀 駿一郎 氏

パネルディスカッション：ライフステージの変化とキャリア観の変化

学生時代から～新卒時代

Q 学生の時、そもそもどんな就活をしていましたか？



兵藤

どちらかというと「若いうちからバリバリ働いて経験を積みたい」という思いがありました。当時から商社志望だったものの残念ながらご縁なく、コンサルに就職したのですが、結果的には「幅広いニーズや課題の解決に取り組む」という商社でやりたかったことを別のアプローチで経験できました。

元々、自分の人生において成し遂げたいことの一つとして、家族を持つことの優先度が高かったです。将来、子供を産んだり、家庭をもつタイミングになったときに、自分がどちらの判断をするかは分からなかったですが、「働き続けること」「家庭に入ること」いずれの選択もできるように、まずは若いうちから機会が与えられて、成長速度が速い会社に入りたいと思っていました。



林氏



(ワンキャリア)佐賀

Q どんな基礎が身に付きましたか？

新卒では中規模の人事コンサルティング企業に入社し、仕事の基礎を叩きこんでもらいました。目的や目指す状態を明確にすること、納期までのプランニング、お客さまとの期待値の調整など、プロジェクトマネジメントの基礎を経験から学びました。



林氏



兵藤

ある種のしぶとさ、でしょうか。コンサル時代は特定の専門分野を持たなかったのですが、設定した課題へのソリューションを考え抜くなど社会人としてベーシックなところを鍛えてもらったと思います。

私がこの会社を選んだ理由 ～ライフステージの変化とキャリアの価値観～

転換点

Q 大きな転換点を感じたタイミングはいつでしたか？



兵藤

社会人5年目。仕事はとても楽しかったのですが、30歳を迎えた時、忙しすぎて結婚・出産のイメージが持てず、またコンサルで活躍する先輩女性の働き方を見て「こうはなれないかもしれない」とも思い、ワークライフバランスを現実的に考え始めました。それも機に転職活動を始め、ビジネスを通して社会を変えていく実感を求めて総合商社へ。

● 三井物産で働いてみて何を思ったか？

入社前はいわゆる男社会かと思っていましたが、仕事の割り振り等で性別を意識することはなく、一方でひとりひとりの自律性は要求されます。例えばプライベートの事情で働き方の変化が必要な場合は、能動的に周囲に働きかけて理解を求めることが必要です。なお産休・育休から復帰して2か月経ち、時短からフルタイムに戻しました。復帰してみると、仕事への欲が出てきましたね。

1人目の出産の後、時短勤務で復帰しましたが、その後すぐにフルタイム勤務に戻して、しばらくしてマネージャーポジションにチャレンジしました。仕事が楽しく、やりがいを感じて没頭してしまい、結果的に家族との時間を犠牲にして働いていました。その時に当時3歳の娘から「ママ嫌い」と言われてしまい、「自分のなかで優先順位がおかしくなっている」と気づいたのが大きな転換期でした。



林氏

Q 育児との両立はどのようにお考えですか？



兵藤

妊娠・出産したからといって会社を辞めようとは思いませんでした。両立している女性も周囲にいて、制度も充実しています。

1人目の出産時は両立できるか不安でしたし、復帰してからも試行錯誤しながら働いていました。2人目の時は、既にメルカリに転職していて、周囲のメンバーも子育てに限らず自分のプライベートと仕事を両立している人が多く、それが当たり前なので不安になることもありませんでした。



林氏

Q 転職を考えるタイミングは出産してから？ または、出産後？

家族が増えるということは授かりもので、そもそもプランニング出来るものではないですし、仕事、家族の状況は個々で異なるので、どちらが良いというのは言えないですね。自分の場合は、転職して、約1年後に2人目を出産しました。



林氏



兵藤

同じ考えです。妊娠・出産は本当に先が読めません。公私ともにその時々で取れる最善のやり方を考えていくしかないと思います。

私がこの会社を選んだ理由 ～ライフステージの変化とキャリアの価値観～

Q 配偶者との分担は？子育てをしながら仕事する上で意識することはありますか？

配偶者とは、常に仕事や子供たちの状況を共有して、突発的なトラブルがあったときお互いにフォローできるようにしています。職場においては「できないことはできないので、やれることをやる」ということを常に考えています。子育てをしていると時間的な制約が多くなりますが、それはもう仕方ないので、感謝の気持ちを持って、会社やチームに対して自分が貢献できる場所で返していくという気持ちで働いています。



林氏



兵藤

仕事と子育ての分担は、中長期的に見て配偶者とフェアになるようにしようと話しています。お互い、今は仕事に振り切らないといけないというタイミングもあると思いますし。職場でも同様に、チームメンバーに助けてもらうことも沢山あるので、感謝を忘れず自分が返せる時にしっかり返すことを意識しています。あと、自分のキャリアや働き方は自分で作っていくという意識を持って、受け身ではなく積極的にコミュニケーションしたいと思っています。



働き方のリアル

Q 会社での働き方のリアルを教えてください。



兵藤

リモートワークと時差勤務(7:45-10:45のなかで始業時間を調整できる制度)をフル活用しています。働く時間帯が一定程度コントロールできるのは、仕事と育児双方の時間を捻出する上でとても大きいです。ただ当社は制度面全体は充実していますが、他社比較で独自性があるかは分からない面もありますし、充実した制度をどのように活用するかは自分次第です。仕事の内容面では、常に希望が通るわけでは当然ありませんが、やりたいことや、それを育児との両立の観点でどう遂行していくかも含め、自分の意思も伝えながら相談します。妊娠・出産が仕事上のブランクになるのは確かだと思いますが、配偶者とも協力しながらリカバリーしていきたいと考えています。

完全にリモートワーク・フルフレックスで働いています。息子に病気があり、保育園に通えない時期には、会社にも相談したうえで、家で息子の面倒を見ながら勤務していました。メルカリにはSick Leaveという制度があって、自身だけではなく大切な家族の病気や怪我を理由とした有給休暇を年10日間取ることができます。ただし、制度を活用するにあたってはそれぞれがプロとして責任を持ってパフォーマンスを発揮していることが前提になっていると思います。また、制度があるだけでなく、実際に使われていることが大事だと思っていて、例えば育休について、メルカリでは男性でも、2か月育休を取得するのが普通になっています。



林氏

私がこの会社を選んだ理由

～ライフステージの変化とキャリアの価値観～

Q

メルカリで育休の取得が積極的に行われている理由は？



育休をとることで結果的にパフォーマンスが上がるからでしょうね。時間的な観点だけで見たら、キャリアとしては中断期間になりますが、私自身しっかりと1年間の育休をとったことで自分の人生や働き方について考えたり、(息子の病気のこともあり)家族が一丸になったとても重要な時間でした。



林氏



兵藤

男女問わず、育児や介護に限らず、プライベートで事情がある場合に働き方を柔軟に調整しやすいカルチャーになれば良いと思います。ちなみに育児で言うと、まだ男性側が育児対応しているケースは女性側と比較して少ないように感じますし、当社が女性の働きやすさに関して日本やグローバルで最先端を走っているとも思いませんが、常に前向きに変わろうとしている印象があり、変化を信じられます。

今後のキャリア

Q

ご自身の今後のキャリアについてお聞かせ頂けますでしょうか？

仕事においても、ライフイベントにおいても、不確実性が高く、大きな方向感を持ちつつも具体的なキャリアプランはあまり考えないようにしています。一方で、チャンスがあって自分がやりたいと思ったら、(多少の不安があっても)やってみる、飛び込んでみることを大事にしています。また、自分が将来やりたいと考えていることについて、1on1で上司に話したり、社内外に発信したり、意識的にそういった種まきはするようにしています。そうすると結果的に機会が巡ってくることもあるんですね。



林氏



兵藤

私が意識しているのは、「主体性を持つ」「全ての条件が揃うまで待つことはしない」ということ。たとえ将来を具体的にイメージしても、転職や出産で価値観は変わる。今やりたいことを大切に、主体性を持ってワークライフマネジメントをするイメージで、キャリアを考えています。今後仕事にフルコミットせざるを得ない局面もあるでしょうが、「じゃあどうやるか」はチャンスが訪れた時の状況に応じて考えるしかないんですよね。三井物産は大きい組織ですが、たった一人の熱意と行動から始まった事業も沢山あり、自ら挑戦すれば、新しいビジネスを作ることも、大きな変化を起こすこともできる。そういう環境に身を置いたことで、腹が座った感覚もあります。

社会人になってから、主体的にキャリアをつくっていく感覚になってきましたね。



兵藤



林氏

私がこの会社を選んだ理由 ~ライフステージの変化とキャリアの価値観~

参加者へメッセージ

自分自身が大事だと思うキャリアや働き方を諦めずに突き詰めていただきたいです。また、ライフイベントによって、働き方の考え方も短期間で大きく変化と思うので、「こうあるべき」や「過去の自分がこう決めたから」に縛られることなく、柔軟に今の自分が望むことに正直になっていただきたいと思っています。



林氏



兵藤

挑戦を諦めないでいただきたいです。特に女性の20~30代は激動ですが、世間一般の「こうすべき」にがんじがらめにならず、その時々で精一杯頑張っていけば良いのだと思います。先を想像して恐れて今行動しないのはもったいない。ワークとライフの両立に関して全ての環境が整っているのは難しくても、自分が当事者として変えていく。全ての方が望むキャリアを描けることを願っています。